



三浦市・葉山町へ「熱中症に関する緊急対策」を求めて申し入れ

6月の半ば以降、高温多湿の日が続く熱中症で病院に運ばれる人が増えています。気温の急上昇は、身体に大きな負担となります。高齢者、持病のある人、乳幼児などは特に注意が必要です。生命の危険が及ぶ暑さに対しては、災害並みの危機感を持って対策を強化することが重要です。

厚労省の発表によると昨年の夏に熱中症で救急搬送された人は97,578人、死者は、これまで最多だった2010年の1,684人を上回り2,033人でした。

消防庁の発表だと、今年6月16日～6月22日までの熱中症による救急搬送者は8,603人で昨年同期と比べると3倍以上となっています。発生場所の内訳では最も多いのは住居内で屋外を上回っています。年齢区分では、高齢者が過半数を占めています。「エアコンがない」「エアコンがあっても、電気代を気にして使っていない」との報告がケアマネやヘルパーなどからは毎年のように届いています。今、必要なのは経済的な理由でエアコンが買えない人、物価高騰でエアコンの使用を控えている人への支援です。

30日に発生したカムチャツカ半島地震に伴って起きた津波の影響で避難を余儀なくされた人が避難先の体育館などで熱中症になる例が全国で11人確認されました。三浦半島の横須賀市・三浦市・逗子市・葉山町の沿岸部の一部も避難指定地域になったことで同様に避難先の体育館で熱中症になってもおかしくない事例が報告されました。そこで、以下の要請を8/1に三浦市、8/6に葉山町にそれぞれ行いました。

【要請事項】

1. 経済的な理由でエアコンが購入できない人への購入費用・設置費用の助成を生活保護受給者の一部だけでなく対象を拡大すること。
2. 地震や津波で避難所として活用する学校の体育館などに冷房設備を整えること。



懇談では、行政側から「避難所に指定されている公立学校の体育館には冷房設備がないことは承知している、財源をどう確保するかが課題」（三浦市）、「エアコンがあっても利用していない高齢者がいることは聞いている。引き続き熱中症予防のためにもエアコンを使用するような啓蒙を徹底したい、教育委員会と申し入れ内容を共有したい」（葉山町）と回答。当法人からは、「経済的な理由でエアコンを購入できない人へ援助を引き続き検討して欲しい」「東京では体育館のエアコン整備率が92.6%に対して神奈川は15.3%とあまりにも低すぎる、国の補助に上乗せして整備率を上げるよう神奈川県に働きかけて欲しい」と要望して懇談を終わりました。その後の報道では、政府が8/7に「避難所となる体育館へのエアコン設置など熱中症対策の強化を関係省庁に指示した」ようです。

当法人では、ひきつづき横須賀市・逗子市にも同様な申し入れを行う予定です。

